

もくじ

- P.1 コロナが子どもたちにもたらした影響 ～第3回修了生とのオンライン交流会～
P.5 アジアのソーシャルワーカーとの日々
P.6 2020年度修了生福祉活動助成事業報告③
P.8 緊急支援の実施報告 ほか

コロナが子どもたちにもたらした影響 ～第3回 修了生とのオンライン交流会～

2月18日（金）アジア社会福祉従事者研修の修了生との交流会をオンラインで開催いたしました。第3回の今回は、韓国・台湾・スリランカの修了生が、自国の状況や取り組みをレポートしました。海外から修了生24名と、国際社会福祉基金委員会の委員や国際交流・支援活動会員、研修関係者など、国内から26名にご参加いただきました。

開会挨拶では、全社協・笹尾勝常務理事が「各地域で感染が広がっているなかで、修了生が工夫や感染予防に取り組みながら活動を継続されていることに、心より敬意と感謝を表す。この2年で、修了生とICTを通じてリアルタイムで情報共有や課題認識をできるようになった。アフターコロナにおいても、オンラインでの交流を継続・発展させていきたい。」と述べました。



参加修了生（全24名） 下線部修了生：スピーカ

（敬称略）

- 韓国：** チャナムフン（2期）、パクボーリ（6期）、ソンキオク（16期）、パクソヨン（20期）、ガンジンヒ（26期）、キムキョンハ（27期）、パクウォンジン（32期）
- 台湾：** ホワンチェンホン（13期）、マチーレン（19期）
- スリランカ：** セートウンガ（2期）、ニラーニ（5期）、ニシャーント（19期）、サンジューワ（23期）
- フィリピン：** ジョイ（12期）、イメルダ（13期）、ウィルマー（23期）
- タイ：** ソムチャイ（4期）
- マレーシア：** アイナ（9期）
- インドネシア：** ワワン（19期）、ヤヤット（22期）、ナンダン（23期）、スアルニ（24期）、エレナ（28期）、ヘニー（29期）



コロナのない世界で暮らしたいです！



ガン ジンヒ (26 期)
韓国家庭福祉会



コロナは経済危機や失業など社会全体に不安をもたらしました。経済的な負担や養育の負担が大きくなるなど親のストレスが増加し、家庭内暴力や児童虐待・ネグレクトが増えました。さらに、社会とのつながりの断絶により、そのような状況の発見が難しく、子どもたちの被害はより深刻になりました。また、低所得家庭の子どもたちは、次の4つの問題に直面しました。

1. 教育格差

オンライン学習における機器や学習スペースの不足、コミュニケーションの難しさから授業についていけない子どもが発生しました。

2. 住居問題

家で過ごす時間が多くなったのに家が狭くて困っている子どもたちがいます。特に学習のために自室や独立したスペースのニーズが高まっています。

3. 日常生活の支障

学校の閉鎖により、家でひとりまたは兄弟だけで過ごす子どもが多く、学校給食が利用できないため昼食にインスタント食品ばかりを食べる子どももいます。

4. 憂鬱感

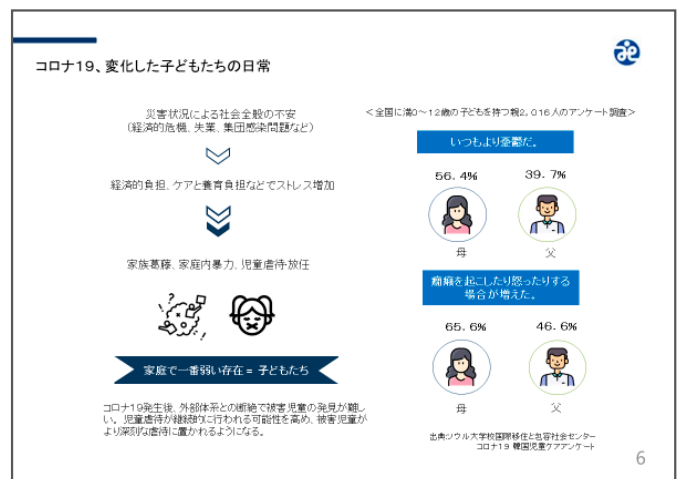
友だちや先生と話す機会がないため、“コロナブルー”と呼ばれる憂鬱感や孤独感を感じています。YouTubeなどのメディアに依存してしまい、運動不足による健康や発達への悪影響が懸念されます。

これらの課題を解決するために、韓国の福祉事業

ではさまざまなことに取り組みました。

教育に関しては、奨学金、PC機器の支援のほか、オンライン授業が難しい子どもに地域の福祉館で授業のサポートをしたり、オンラインで職業体験ができる無料のプログラムを提供しました。日常生活に関しては、栄養のある食事を子ども食堂やお弁当で提供したり、女性への生理用品の支援、フードデリバリークーポンの提供も行いました。家族関係増進プログラム、子育て支援、カウンセリングなどもオンラインで実施しました。

コロナのパンデミックがいつ終わるのか誰にもわかりません。子どもたちの問題は長い目で見れば私たち社会の問題です。いま、社会の関心と適切な対策が必要です。



マ チーレン (19 期)
台湾児童家庭扶助基金会



台湾児童家庭扶助基金会 (以下、TFCF) は児童福祉サービスを提供しています。TFCFはコロナによる生活への影響について、4つの側面からアンケート調査を行いました。

「体と心の健康」について、日々の不安や子育ての負担およびストレスが増えた、感染対策用品や食料が不足しているという回答が多くありました。「家族関係や子どもの勉強」については、自宅で子どもの活動をどう面倒みたらいいかわからない、子育て

支援が不足している、という回答が多く見られました。「経済生活」では、世帯収入が減少したという回答が最多でした。「仕事」については、子どもの面影をみるための休暇をとれない、労働時間が短縮した・失業したという回答が多く寄せられました。

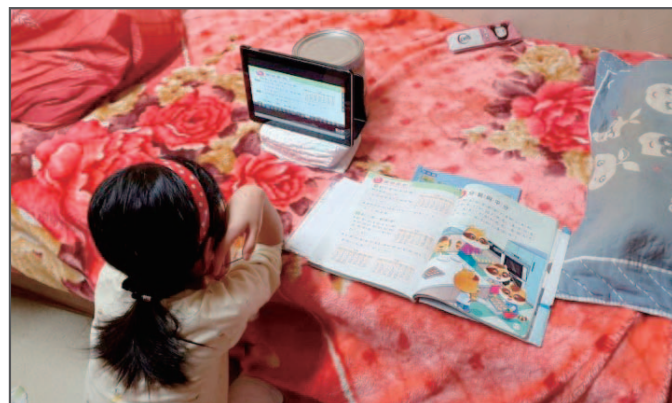
TFCFはアンケートの回答とソーシャルワーカーの現場の声を踏まえ、暮らし、精神面、オンライン学習を支える3種類のサービスを提供しています。

「暮らしのサービス」は、支援金や食糧などの物

資の提供です。「精神面を支えるサービス」では、個別ワークや親と子どもの懇談ワークを提供します。「オンライン学習のためのサービス」は、タブレットやパソコンなど機器の提供とインターネット通信料の支援です。これらのサービスを含む TFCF の資金は、全て台湾の人びとからの寄付によります。

TFCF のサービスを利用する子どもたちの声を紹介します。ある子どもは久しぶりに外出した際、にぎわっていた台北の街にあまりに人が少なく、恐怖を感じたと言いました。また、貧しい家庭の子どもは自室を持っていません。ある子どもは、家でオンライン学習する際、ベッドに機器を置いて床に座って勉強しているそうです。良いこともありました。以前は遅くまで働いていて家にいられなかったお父さんと、一緒に料理や食事をできるようになり、うれしいと語る子どももいます。

コロナにより全ての人のライフスタイルが変化しました。政府および福祉関係者は、きっとコロナ禍にうまく対応できます。TFCF は 70 年の歴史による豊富な経験と専門知識を活用して、これからも台湾の子どもと家族を支援していきます。



セートウンガ (2 期)
NESEC 財団



学校が閉鎖している間、オンライン授業を行いました。特別なサポートが必要な子どもたちは十分な勉強ができませんでした。なぜなら、視聴覚障害のある子どもたちに対するオンライン授業の知識や機器が不足していたからです。

学校では、教師を対象に研修を行い、子どもたちもオンライン学習について学び、手話なども用いて視聴覚障害児のためのオンライン授業を開始しました。

また、在宅学習の計画を立てました。月曜日から金曜日まで、1 日に 5 科目の授業をおこないます。金曜日には復習プログラムや生徒たちの作品を紹介する時間を設けました。そして、教師は毎週日曜日に、その週の課題と授業の進行状況についてオンライン会議で話し合い、保護者の相談を受ける時間も月に 1 回設けました。

機器不足への対処として、理事会と保護者会の支援により、必要な子どもたちに機器やインターネット通信料を支援しました。

学校が再開すると、子どもたちは寄宿舍で共同生活を送るため、適切な感染予防対策が必要でした。そこで、定期的にマスク着用や手指消毒、ソーシャルディスタンスについて呼びかけました。また、コロナや他のウイルスに感染した子どもの療養および隔離の場所が不足していました。2020 年度に全社協の助成事業で改装した衛生的な部屋を療養部屋に

サンジーワ (23 期)
センカダガラ視聴覚障害者のための学校協会



使用しました。

8 期ナンダさんのスリスガタ財団児童養護施設では、パソコンが足りないので、数人で 1 つのスマホの小さな画面を覗き込みながらオンライン授業を受けました。電波も安定していませんし、オンライン授業では集中力が続かないという課題もありましたが、がんばって勉強しています。

問題への対応

1. オンライン教育に関する知識を教師と子供たちと伝える。
2. 視聴覚障害児のためのオンライン教育の開始。





全体ディスカッション

コロナ禍で子どもたちの居場所に 変化が生じたか

(韓国) 子どもの居場所は減った。親が感染または隔離対象になった際、自宅に緊急ケアスタッフを派遣するサービスが新しくできた。

(スリランカ) 子どもたちは学校閉鎖中ずっと家にいた。オンライン授業のために親のスマホを借りた子どもがインターネットゲームに入れ込んでしまい、親は困った。

マスクをめぐる問題

(日本) 子どもたちの感染が増え、低年齢児にもマスク着用が推奨されたが、顔の表情が見えないことによる発達への影響や夏期には熱中症も危惧される。

(インドネシア) インドネシアは一年中暑く、マスクは子どもだけでなく誰にとっても煩わしい。1月から子どものワクチン接種が始まり、学校が再開されたが、2月現在子どもの感染が非常に多い。

つながりづくり

(韓国) 地域にある社会福祉館という施設を中心に街づくり事業を進めており、オンラインセミナーや交流会をおこない、ホームページやFacebookで紹介している。

(台湾) Facebookで様々な活動を発信している。家庭との交流のきっかけになることがある。

(スリランカ) 学校再開後はウイルス持ち込みを防ぐため、寮からの一時帰宅を制限したが、子どもたちは親に会えない寂しさをビデオ通話で埋めた。聴覚障害のある子どもにとってビデオ通話は重宝する。だからこそ機器の無い子どもには機器を提供した。

参加者 からの声

- コロナ流行は未だ収束していないが、各国における現在のリアルな取り組みを聞くことができ、有意義だった。
- コロナ禍で各国の皆さんが、現場で真摯に課題と向き合い、努力されている様子をうかがえた。
- 日本と共通する課題がある一方で、国によって事情や課題が大きく異なる部分があることが理解できた。
- コロナ禍だといって足踏みするのではなく、できることをできる限り行っていて素晴らしいと感じた。



全国社会福祉協議会のホームページ内「修了生福祉活動ビデオ集」では、オンライン交流会の動画や修了生福祉活動助成事業を紹介する動画をご覧ください。

詳しくはこちらから
ご覧ください。



アジアのソーシャルワーカーとの日々



高橋 誠一郎

社会福祉法人 至誠学舎立川
児童事業本部 事務局長

至誠学舎立川でのアジア研修生は、高齢者施設、保育園、児童養護施設、障害者施設等で研修期間を過ごします。歓迎パーティーでは研修生のお国の歌を皆で歌ったり、研修生がギターを演奏できたりすると、一気に和み打ち解け合いました。

高齢者施設では夏の納涼会で浴衣を着て盆踊りを楽しんだり、保育園ではお散歩に付き添ったり、障害者施設では日中の作業に同行したり、児童養護施設では夏の宿泊行事と一緒にいたり、研修生も忙しく施設での実習から多くの学びを得ていると思います。そして研修生の国を料理や映像などで紹介くださり、毎回の楽しみです。研修生を囲んで、福祉のお話やカルチャーについて、夜遅くまで語り合うこともありました。

法人の研修や各施設の研修等にも積極的に皆さん参加され、慣れない日本語での研修は大変だと思いますが、事前の日本語研修でしっかりと学ばれているのでコミュニケーションが取れるのはありがたく、私たちにとっても多くの学びをいただいています。

休日は都内の散策に出かけたり、休日の合う職員で富士

山までドライブしたこともありました。研修生のお陰で私たちもいい思い出が積み重なっています。

研修生とは研修後も交流が続き、職員グループで研修生の国へ訪れ施設見学や名所を案内いただいたり、中には結婚式にご招待いただいた方もいて、職員の参加やお祝いのメッセージビデオをお送りしたりしました。

全社協のニュースレター「きぼう」で届くニュースは、多くの研修生がそれぞれの国のソーシャルワークの最前線で活躍されていることが伝えられ、共に過ごした皆さんのご活躍は本当に喜ばしく思っています。皆さんの実践の礎の一つに日本で過ごした研修があることを願い、今後も交流を続けていけることを嬉しくおもいます。早くコロナが明け、アジア社会福祉従事者研修の研修生との交流が再開されることを願っています。



ジュリエットさん（フィリピン 36期）
歓迎会



ジュリエットさん納涼会で
浴衣姿



田之上 縁

社会福祉法人 常盤会
法人本部

【研修生受け入れの始まり】

当法人は、アジア社会福祉従事者研修事業の意義に賛同し、国際交流に伴う職員の視野の拡大とご利用者の生活の充実等を目的として、2006年より研修生の受け入れを開始しました。スリランカのサンジーワさん（23期）から始まり、これまでにアジア各国から8名の研修生を受け入れてきました。

【研修生を受け入れるにあたって】

法人として研修生を受け入れる際に重視していることは、「不安の軽減」です。慣れない土地で生活する以上、不安をゼロにすることは難しいと思いますが、生活の拠点となる場所の安全性や困ったときにいつでも相談できる緊急時のサポート体制の整備、研修生が自分の意見を言いやすい雰囲気作りなど、安心して学べる環境が提供できるように心がけています。研修プログラムもそのひとつで、研修生の専門分野と研修ニーズから、どの施設で、誰を担当にし、どのような関係機関の協力を得るかを事前に検討した上で案を提示し、研修生の意見や希望を直接確認しながら、不安や違和感なく研修が進められるよう話し合いを重ねています。

当法人の研修は、研修生の専門分野の施設に軸足を置きつつ、法人内の施設だけでなく福祉を取り巻く医療・保健・

教育・行政等の関係機関でも実習をしていただいています。ライフステージに応じた地域の支援体制を知り、どのように施設と地域が繋がっているかを体験から感じ取っていただく機会にしたいという思いから、各機関に本研修の主旨と意義を説明しご理解いただくところから始めましたが、今では研修生の人柄や福祉への情熱に触れた関係機関の方々から、「ぜひ毎回受け入れたい」と好評で、本研修に積極的に関わってくださっています。

【施設研修を通じて得られたもの】

研修生を受け入れるたびに驚かされるのは、向学心の高さや社会福祉従事者としての強い使命感です。研修生と交流した職員はそれぞれに、「研修生にあって、自分に無いもの」に気付かされます。「自分の仕事に誇りを持つことを教えられました。」と語った職員もいます。

今は新型コロナウイルス感染症の影響で直接の交流が困難な状況ですが、1日も早く収束し、本研修が再開されることを心より願っております。



王さん（台湾 31期）



パイパイさん（マレーシア 36期）

2020年度 修了生福祉活動助成事業報告③

本事業は、アジア社会福祉従事者研修修了生が行う社会福祉事業等への助成を通じて、アジアの社会福祉の発展に寄与することを目的に実施しています。前号に引き続き、2020年度助成を行った10事業のうち、4事業の概要について報告いたします。

「自然保護活動を通じた生活力の向上」

ピック (タイ 22 期)

シェアリング・ラブ・ファミリー グループ



シェアリング・ラブ・ファミリー グループは、様々な学びの機会を提供し、子どもたちや若者、彼らを取り巻く人々の成長を促すことを目的として活動する団体です。遊びを通じた児童発達、家庭での健康管理に関する知識の共有による家族の生活の質の向上に取り組んでいます。

本事業の目的は、子どもたちとその家族に、スマートフォンやインターネットなどのテクノロジーに依存しすぎない生活を学ぶ機会を提供すること、ラムタコン川沿い地域の子どものたちや地域住民が、地域の自然保護団体の活動に参加し、持続可能な生活について学ぶことを促進することです。

「コミュニティの自然なあり方」についてのオンライン・ワークショップを2回実施しました。ラムタコン川についての学習、カヤックを使って水上マーケットについて知る、野生動物の保護、地元の食材やダーマ（仏教における法）についての

対話を行い、これらを Facebook や YouTube などを通じて発信しました。

30 組の子どもとその家族が参加し、自然の中での遊びを通して、簡素な生活の価値を学びました。それは自然や環境が保たれる持続可能な生活そして社会につながります。また、メディアを用いた情報発信により、少なくとも1万人に知識や情報を共有しました。

今後も新型コロナウイルスによる制限は続くため、コミュニケーションや自然活動への参画のためのメディア活用を進展させていきます。また、地域での新型コロナウイルスの予防についての理解を促進する活動を組織したいと考えています。



メディアを通して配信するピック氏 ラムタコン川沿いでのワークショップ

「楽しい学びづくり」

ビバリー (マレーシア 32 期)

モンフォート青年研修センター



モンフォート青年研修センターは、貧困や両親がいないなどさまざまな状況の若者に生活支援を行っています。2年間かけて自動車整備やエアコン修理の技術、英語や計算など基本的な知識を学びます。本事業では、学習に困難をかかえ、特別な支援が必要な学生 76 名に、5つのプログラムを行いました。

「脳活性化運動プログラム」は、集中力を高めるために脳を刺激する運動です。事前に教師たちが Zoom のワークショップで実施方法を習得しました。学生たちは授業の前や集中力が切れそうになった時に体を動かし、教師たちはしだいに学生に合った学習を増やすこともできました。

英語学習では3つのプログラムを組み込みました。「発音プログラム」では、文字と音の関係をアクションやお話、指の感覚や歌などさまざまな感覚を駆使して身につけていく教材を用いて、正確な発音を習得します。言語に障害のある学生たちも卒業式で堂々とスピーチを行いました。「読解プログラム」では、月曜から木曜に1時間、学生たちはそ

れぞれ好きな英語の本を1冊選び、読みながら問題を解きます。読む本を学生が選ぶことができ、自主的な学習が身につきました。「1対1リーディング・プログラム」では、毎週金曜日に、学生が15分間読書し、その後理解や読み方を教師に質問しながら読む力をつけます。学生は最小限の指導でスラスラと英語を読めるようになり、英語を話すことに自信をつけました。

「卒業生の振り返り」は、研修センターでの暮らしの振り返りおよび評価をし、卒業後の課題を理解する3日間のプログラムです。礼拝や講義、ディスカッション、映画鑑賞などが含まれます。コロナのために予定していたプログラムができず、状況に応じて変更することもありましたが、社会に出る前の締めくくりの活動ができました。



1対1リーディング・プログラム 「卒業生の振り返り」プログラム

(事務局付記) 本事業は、ロックダウンにより送金を3か月延期し、2020年7月に事業を開始しました。しかし、11月に感染再拡大により学校が閉鎖され、事業を中断しました。2021年2月より再開しましたが、その後も数度に及ぶ活動制限により、生徒の卒業に必要な授業時間が足りず、卒業日を延期しました。2021年3月に事業が完了予定でしたが、繰り返される厳しい活動制限により、2021年12月ようやく学生たちが卒業を迎えることができました。

「社会的弱者のエンパワメント」

アーリヤダーサ (スリランカ 4 期)
サハナサラナ社会福祉財団



肺疾患のある者は、患者が集まる地域で生活することが多く、社会とのつながりが希薄になってしまいます。そこでカルタラ地区の肺疾患のある患者やその家族を対象に、社会との関係を構築し、自己実現を図る機会としての地域交流イベントを実施しました。参加者は肺疾患のある患者やその家族、子どもたち、高齢者、低所得者です。

イベントでは、妊婦への医薬品や必要物資の提供、子どもたちへの学用品や制服の提供、カルタラ総合病院への寄付を行いました。また、医師による無料診療も実施しました。結核患者の特定、他の病気の有無や健康状態の確認を行い、薬を提供しました。

そのほか、子どもたちが観客の前でステージに立ち、ダンスや歌、スピーチなど得意なものを披露する企画、メンタルヘルス向上ワークショップも行いました。

54 家族、約 200 名が参加し、コミュニティにおける専門家や関係機関とのさらなる関係づくりのため、寺の住職や、地区の役人、住宅管理者などもサポートに加わりました。本イベントを通じて、肺疾患の患者が集住する閉ざされたコミュニティに対し、社会とのつながりを構築し、社会参加を促すことができました。

今後もイベントに参加した人びとやコミュニティと関わりをもち続け、状況の確認や情報提供を続けていきます。また、さまざまな事情で孤立したりつながりを持ちにくいコミュニティや人びとへの支援を実施していきます。具体的には、2025 年までにサハナサラナ財団による家庭訪問を実施したいと考えています。



イベントに参加する人びと



子どもたちへの学用品の提供

「障害児に対する心身面・社会面・精神面の支援とケア」

ワワン (インドネシア 19 期)
ソシエタ・インドネシア財団



ソシエタ・インドネシア財団では、ソーシャルワーカーやボランティアなどによって、専門的なケアや社会福祉サービスを提供しており、自然災害の避難民や障害者、里親や養子への情報提供や支援などを行っています。

障害者はいまだに周囲から否定的にみられることがあり、家族は彼らを隠そうとする傾向があります。それは教育や社会とのつながりを欠いているためであり、障害者およびその家族に対し、適切なケアや支援を受けるよう促す必要があります。

そこで本事業では、40 名の障害児およびその家族に対する、心身面、社会面および精神面（スピリチュアル面）における介入と必要なサービスの提供を行いました。家庭訪問によりサービスを受けていない障害児の家族を把握し、すでにサービスを受けている子どもや家族と一緒に支援プログラムに参加してもらいました。アセスメントの結果によって介入が必要だと判断した場合は、セラピストや医療関係者など専門家につなぎました。

また、直接的なケアだけでなく、約 400 名の障害児とその家族などを対象に、ワークショップなどを通じた啓発活動を行いました。「妊婦の栄養失調を回避する栄養補給」に関する教育、障害児の家族への「児童虐待および暴力の防止教育」、特別教育スタッフや一般の教師に対する障害児支援のための研修、「栄養・水・衛生・健康」についての教育活動を実施しました。

今後の課題は、今回の取り組みを持続していくことです。障害の状況に応じたサービスを提供できるよう、スタッフやボランティアのスキルアップを図るとともに、同じ目標をもつ政府やセーブ・ザ・チルドレンと議論を重ね、パートナーシップを強めていきます。



アセスメントのようす



他機関とのネットワークの強化

※本事業は、1997（平成 9）年から毎年実施しており、現在は、公益財団法人日本社会福祉弘済会、公益財団法人毎日新聞東京社会事業団の助成および本会の国際社会福祉基金を原資に助成を実施。2020 年度までに、8 か国、延べ 184 団体、総額約 5,470 万円の助成実績。

緊急支援の実施報告

2021年度は新型コロナウイルス感染症の影響で事業運営上の支援を要するという修了生からの要請を受け、国際社会福祉基金より2件の緊急的な支援を行いました。

スアルニ 氏 (インドネシア 24 期)
サクラ財団

支援金額：約 27 万円 (3,580 万インドネシアルピア)
2021 年 3 月送金

- ・所属財団は虐待や暴力被害を受けた女性や子どものためのシェルターを運営し、女性 33 名、子ども 17 名を受け入れている。(2021 年 3 月時点)
- ・以前は、財団が運営する保育園や食品販売の事業収入をシェルター運営費に充てていたが、コロナ禍では政府から事業実施を禁止され、運営費を賄えなくなった。
- ・行政の補助を受けられるまでの間、シェルターで生活する女性と子どもの食費、衛生用品やオンライン学習にかかるインターネット費用など約 6 か月分相当を支援した。

チンタナ 氏 (タイ 3 期)
ネオヒューマニスト財団

支援金額：約 20 万円 (59,400 タイバーツ)
2021 年 9 月送金

- ・所属財団が運営する学校および児童養護施設は、ミャンマーとの国境地帯に位置し、タイの市民権がないために公的支援を受けられない子どもたちを受け入れている。
- ・地域の主たる産業は観光業であるため、コロナにより家計が厳しくなった保護者の学費未払いや、2021 年 5 月以降続く学校の閉鎖により学費収入が激減し、子どもたちの食費など生活費の捻出が厳しくなった。
- ・市民権をもたないために政府の支援を受けられない子ども 33 名の食費 2 か月分相当を支援した。

国際交流・支援活動会員にご登録いただいた会員の皆さま

ご登録ありがとうございます。お寄せいただきました会費は、国際社会福祉基金への拠金として受け入れ、大切に使用させていただきます。

*令和 3 年 12 月 7 日～令和 4 年 3 月 15 日にご登録いただいた法人・個人の方 (敬称略)

【法人・組織会員、賛助会員】

学正会 (福岡県) / 愛生会 (秋田県) / 竹里会 (福井県) / 梓友会 (静岡県) / 阪南福祉事業会 (大阪府) / セイワ (神奈川県)
*以上、社会福祉法人

【個人会員】

松原 勇作 / 藤田 宏明 ※その他 4 名様 (本会役職員含む)

国際社会福祉基金委員会の開催報告

令和 4 年 2 月 25 日 (金)、国際社会福祉基金委員会 (令和 3 年度第 2 回) を開催しました。令和 3 年度事業進捗状況および決算見込みの報告、令和 4 年度事業計画 (案) と収支予算 (案) の協議をおこないました。令和 4 年度の事業計画 (案) では、アジア社会福祉従事者研修は令和 5 年 3 月の再開をめざすこと、アジアにおいて困窮した子どもの自立支援に資するような新プロジェクトの創設などが承認されました。また、修了生福祉活動助成事業の 2022 年度助成対象事業の審査を行いました。